

## 高温時における家畜類の飼養管理技術について

令和元年8月6日

上伊那農業改良普及センター

### 共通

- (1) 農作業中の熱中症を予防するため、炎天下の長時間にわたる作業はできるだけ控える。  
また、帽子等日除け対策を万全に行うとともに、十分な水分補給と休憩時間を確保し、体調がすぐれないときは作業を中止する。  
作業服は吸湿性・通気性の良いもので、熱を吸収しないもの(白系統の色)にするとよい。帽子も通気性の良いものを着用する。ハウス等の施設内作業については特に注意する。
- (2) 現地指導会においては、木陰を利用するなど開催場所に配慮するほか、適宜、休憩をとり水分補給を促す。  
特に、高齢者には、声を掛けるなど参加者の体調にも配慮すること。
- (3) 急激な天候の変化(落雷、突風等)の場合においては、参加者を安全な場所へ誘導するなど適切な対応に努める。

### 畜産

- (1) 畜舎管理
  - ア 開放畜舎の側壁の窓や天窓、サイドカーテンは全面開放し、自然通風に努める。併せて、畜舎の外回りの環境整備(除草等)により、舎内に溜まった熱気の排出を促す。
  - イ 屋根裏への断熱材の設置や、屋根への散水又は消石灰等の塗布により太陽熱を軽減し舎内温度の低下に努める。  
また、西日が当たる側に植樹、遮光ネット、よしず、寒冷紗等で直射日光を軽減する。ただし、植物を利用する場合は風通しにも配慮し、枝等の整理を適宜行う。
  - ウ 畜舎内の暑熱対策としては、家畜への送風と畜舎の換気が重要になる。扇風機やポリダクト等を設置して、なるべく家畜が暑さを感じる首から肩付近に向けて送風する。また、一定方向に向けて空気の流れを作るように、角度を調整して送風換気に努める。
  - エ 畜舎内に温湿度計を設置して日頃から温度・湿度を観察するとともに、畜舎の中でも暑さを感じやすい場所を把握し、対策を講ずる。
- (2) 家畜管理
  - ア 密飼いを避けるとともに、暑さのために増加する給水量に備え、給水機の清掃や点検をしながら、常に新鮮な水が飲めるようにしておく。
  - イ 高温時における採食量の低下を軽減するために、飼料給与を夜間等の涼しい時間帯に移したり、1回の給与量を少量にして回数を増やす等の工夫をする。  
また、飼料の品質にも注意し、新鮮で高品質、かつ嗜好性・栄養濃度の高い飼料の給与で食欲と栄養を確保する。また、暑さによる消耗を考慮し、ビタミン・ミネラル類を通常より多目に給与する。
- (3) 飼料作物管理
  - ア 牧草類の刈り取りは8~10cmのやや高刈りとし、再生力が悪くならないようにする。
  - イ 水田転換畑等で、用水の確保が可能な飼料畑ではかん水に努める。なお、事前に排水溝を設ける等して、過剰水が滞水しないよう留意する。
  - ウ かん水と追肥を兼ねて家畜尿を施用する場合は、水で2倍以上に希釈して行う。